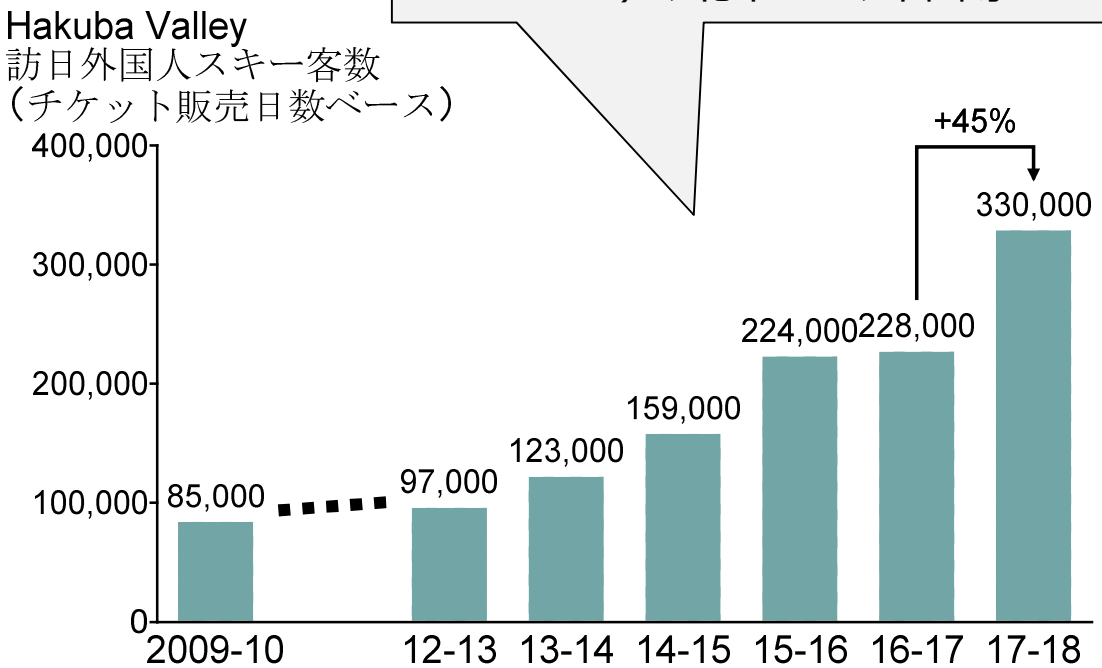
資料２－２

世界水準のマウンテンリゾートの実現に向けて

白馬観光開発（株）代表取締役社長　和田　寛

白馬山麓10スキー場の集合体である”Hakuba Valley”では外国人スキー客が急速に増加中。来場者の25-30%程度がインバウンドに

50%程度が豪州から。次いで台湾（15-20%程度）、香港、シンガポール（5-10%）、北米・EU、中国等



注: 白馬バレーは、爺が岳、鹿島槍、さのさか、五竜、47、八方尾根、岩岳、栂池高原、白馬乗鞍、コルチナの10スキー場で構成

Hakuba Valleyにおけるインバウンド増加に向けた具体的取組

「10スキー場を一つのスキー場として楽しめる」インフラの整備

- Hakuba Valleyブランドの立ち上げ
- スキー場共通の自動改札システムの導入
- スキー場間のシャトルバスの頻繁な運行
- 海外リゾートとのアライアンス　等

スキー場内での「リゾート感」の演出

- 外部プレーヤーとの連携も通じ、「アプレ・スキー」も楽しめる施設の導入
- 絶景を楽しめるテラス・カフェを新設。ノンスキーヤーも非日常感を楽しめる場を創造

非圧雪の滑走環境の充実

- 特に外国人から強い「JAPOW」（Japan Powder Snow）ニーズに応えるため、コース外を新たに借り受け、間伐や雪崩管理を施し安全に非圧雪を楽しめるエリアとして開放

長期滞在に適した宿泊施設と街並みの整備

- 廃業の続く民宿街を面的に再生し、長期滞在に適した「高級古民家リゾート」に
- 夜間に日本文化を楽しめるイベントを開催

国内スキー市場が低迷する中、世界水準の「オールシーズン・マウンテンリゾート」を確立し、国内外から新たな誘客を進めていきたい

「白馬＝冬のスキー場」から
オールシーズン楽しめる
世界水準の「マウンテン リゾート」へ

世界水準のマウンテンリゾート実現に向けた提言

①国際競争力の高い重点スノーリゾートの選定

【現状】
・日本人スキーヤーが減少する中、外国人スキー客を誘客するためには、インバウンド対応を徹底し、競合する世界のスノーリゾート（ウィスラー、シャモニー等）と肩を並べる必要

【提言】
・スノーリゾート全体でインバウンド対応に取り組もうとする地域を**「世界水準のスノーリゾートの形成を目指す地域」として選定**
・JNTOによる海外発信や、**インバウンド対応に対する優先的な財政支援**を実施
・これにより、ゴンドラの新設等に対し、**政府系金融機関等からの出資・融資**等の支援が受けやすくなる環境を実現
・ゴンドラの新設等に当たっては、保安林解除、国立公園規制等の手続きも柔軟に対応をお願いしたい

②外国語対応可能なスキーインストラクター等の確保

【現状】
・**外国語対応可能なスキーインストラクターが圧倒的に不足**
（3年前の規制緩和では、その後のインバウンド増加に対応できていない）

【提言】
・スキーインストラクターの**在留資格のさらなる緩和**をご検討いただきたい
・ケガ人の救助等に当たるパトロールについても同様に確保をお願いしたい